

**請願文書表**（令和3年3月定例会）

受理番号	請 第 1 号
受理年月日	令和3年3月3日
件 名	国へ「中学校も含めた義務教育における30人以下学級を早急にすすめる意見書」の提出を求める請願
請 願 者	舞鶴市字福来 905-15 舞鶴教育会館内 舞鶴の子どもと教育を守る会 代表 石間 初美 ほか4団体
紹介議員	小西 洋一、石束 悦子、小杉 悦子、西村 正之
要 旨	<p><b>【1. 請願事項】</b> 舞鶴市議会において、「中学校も含めた義務教育における30人以下学級を早急にすすめる意見書」を採択し国へ提出してください。</p> <p><b>【2. 請願理由】</b> 昨年春、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長期にわたり学校の臨時休校が措置されました。休校措置後も感染予防策をとりながら、子どもたちの登校が再開しましたが、30人を超える教室では、ソーシャルディスタンスもとれず、その「密集状態」が問題となり、また、クラスを半分ずつ登校させる分散登校を行った学校からは「一人一人にいていねいに関われる。」という声上がり、改めて少人数学級の重要性が浮き彫りになりました。そのような中、現場の教職員、保護者や、全国知事会、全国校長会といった団体、教育再生実行会議や中央教育審議会からも少人数学級実現を求める声が強まり、21年度予算において、文部科学省は、40年ぶりに学級定数を改定し、小学校の35人学級を決定しました。</p> <p>国の基準が改定されることは大いに評価されるのですが、この予算案において、中学校や高等学校の定数改定は見送られ、小学校での35人学級も5年かけて実施する計画となっています。生徒にゆきとどいた教育を進め、現在の学校が抱えている様々な課題を解決するためにも、中学校も含めた30人以下学級の実現が一刻も早く求められます。2月15日の国会において、菅首相は国会議員の質問に対し「中学校も35人学級を検討する」と答弁しています。</p> <p>現在、舞鶴市では、小学校の約9割の学級が30人以下ですが、逆に中学校においては30人以上の学級が約9割を占めています。中学校現場が抱えている学力格差の広がりや不登校の増加、年々きめ細やかな手立てが必要になっている発達障害のある生徒たちへの対応など今日の教育課題を解決し、生徒にゆきとどいた教育をすすめ、保護者の要望にこたえるためにも、中学校も含めた30人以下学級を早急に実現していくことが必要ではないでしょうか。</p> <p>以上の理由から、国へ少人数学級実現を要請する意見書が全国各地の議会で採択されています。1月14日現在、25道府県議会、市区町村の4割近い634議会において採択され、京都府議会、京都市会も全会一致で可決しました。また、舞鶴市議会においても、2000年9月議会において「小・中・高30人学級を早急に実現し、複式学級を直ちに解消するよう、国・府に働きかけてください」という請願が全会一致で可決されています。舞鶴市議会においても「中学校も含めた義務教育における30人以下学級を早急にすすめる意見書」を採択し国への送付をお願いします。</p>
付託委員会	市民文教委員会

